

質問 伊藤（秀）議員（自民・大垣市）令和7年10月1日（水）

5 子ども・若者の健全育成について

（3）③岐阜県図書館の機能の充実について

答弁 知事

テレビやインターネットなどの「映像」でございますが、これは視覚と聴覚を通じて、短時間で多くの情報を直感的に理解できる利点がある一方で、推測したり想像力を働かせるといった活動をあまり必要としないと言われております。

他方、「活字」は想像力を働かせながら理解するため、考える力や表現力を育むことができるほか、筋道を追って考えることで、論理的思考力や理解力が深まると言われております。

実際、経験的にも、文学作品などが映画化された場合に、先に本を読んでから映画を見て、「あれ？」こんな感じだったかな、と感じた方は少なくないと思います。これは「活字」によってもたらされる想像の自由度に比べ、「映像」が作り手のイメージに限定されることや、映像技術の制約から来る違和感であると考えられます。

このように、読書活動は、子どもが「言葉」を学び、「感性」を磨き、「創造力」を豊かなものにし、考える力を身に付けていく上で、極めて重要なものであると考えられます。

しかしながら、議員にご指摘いただいたとおり、昨今の読書離れにより、こうした重要な機会が失われているところでございます。

本年6月に実施いたしました「子ども若者県政モニター」への読書に関するアンケートでも、1か月間本を全く読まなかったと回答した割合である、いわゆる「不読率」、これが小学生では7.5%、中学生では16.9%、高校生では実に31.2%という結果が出ておるところでございます。

また、このアンケート調査では、図書館の在り方について、「好きな時間に行けるようたくさん開放して欲しい」や「友達と一緒に読む時間があったら良い」など、図書館を利用したくなるための貴重なご意見もいただいているところでございます。

岐阜県図書館を活用して、子どもたちの読書の機会を増やすためには、子どもたちにとって、まずは、県図書館が「楽しい場所」、「行ってみたい場所」と感じ、気軽に読書や芸術・文化に触れていただけるよう工夫することが必要と考えております。

実際、子どもたちが岐阜県図書館を利用する頻度は少なく、県美術館も含めて、利用者は残念ながら減少傾向にあるところでございます。

こうした観点も踏まえまして、議員に触れていただきましたが、この夏、まずは県有施設に人が集まるための取組として、県図書館と県美術館が連携して「『県民文化

の森』夏のわくわくプロジェクト」を実施したところでございます。

この期間中、じゃぶじゃぶ池やキッチンカー、モーニングサービス、スタンプラリーなどを実施したところ、両館を訪れた方は約7万6千人と前年に比べて2割以上増加しておりまして、県図書館の閲覧室利用者も約4千人増加したところでございます。今後も、こうした取組を通じまして、先ずは図書館を訪れ、書籍や文化を身近に感じていただける取組を実施してまいります。

また、これもご指摘いただきましたが、今年度県図書館は、開館から30年という節目を迎えることを機に、かねて利用者から要望がありました「開館時間の前倒し」について検討し、来年度から実施できるように準備してまいります。

加えて、親子や友達同士で周りを気にせず、より読書に親しむことができるよう、新たな「児童コーナー」の設置を検討するなど、施設の充実にも取り組んでまいります。

担 当 課 文化伝承課

電話番号 058-272-8756

メー ル c11148@pref.gifu.lg.jp